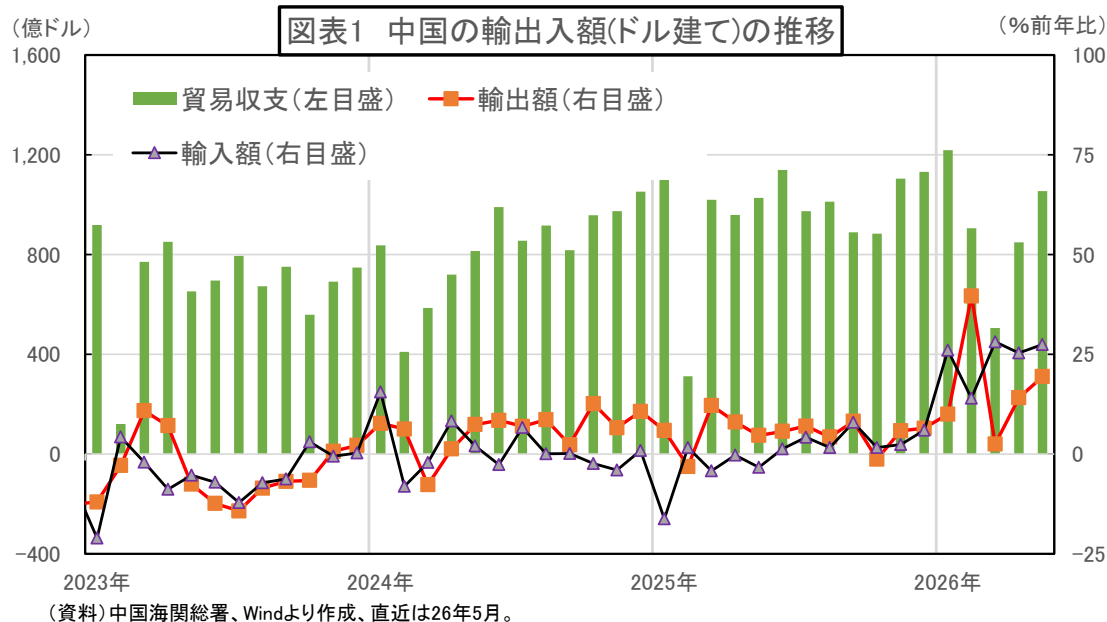


### (中国)AIブームと資源価格上昇を背景に5月の輸出入はいずれも好調

2026年6月9日に中国海関総署が発表した5月の貿易統計によると、5月の輸出額(ドル建て)は前年比19.4%増の3,768億ドル(約60兆円)となり、市場予想を大幅に上回った。これは3月(同2.5%)、4月(同14.1%)から伸びがさらに拡大し、7か月連続のプラスとなった。(図表1)。なお、ドル安・人民元高の進行を受け、人民元建ての輸出額(2兆5,878億元)は前年比13.8%増となった。



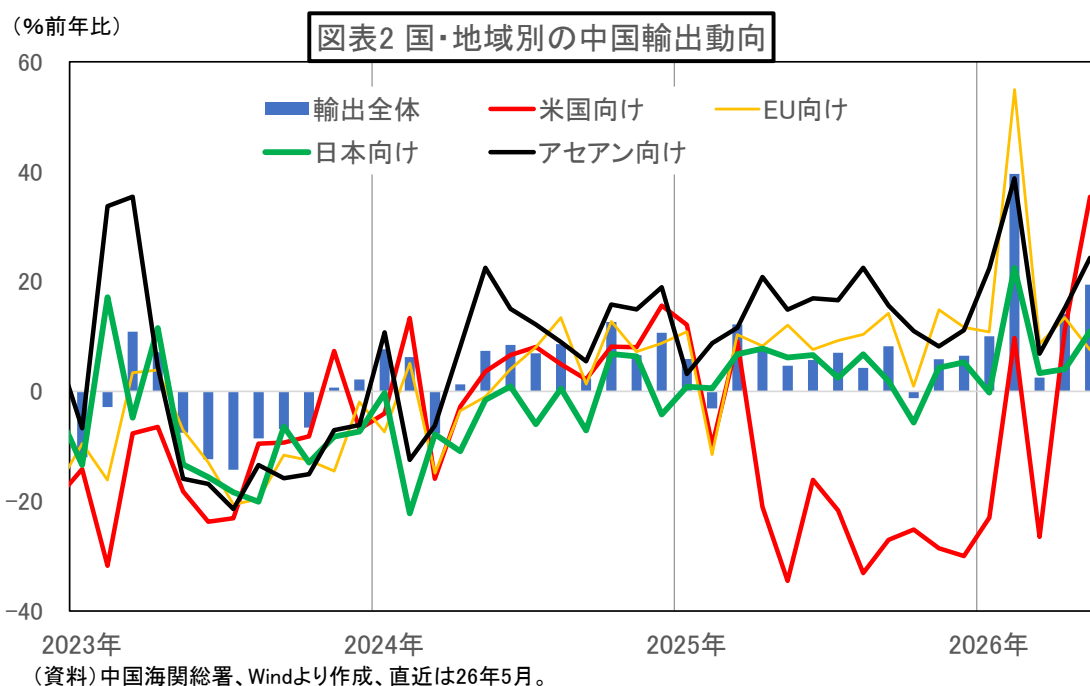
足元の輸出が大きく伸びた背景としては、世界的な AI 投資ブームに伴う半導体や電子部品の価格上昇、国際原油価格の高止まり、対米輸出の持ち直しなどが挙げられる。

品目別では、集積回路(355億ドル、輸出全体の9.4%)が同110.9%と大幅に伸びた。ただし数量ベースでは前年比2.1%と4月(同3.8%)から鈍化しており、価格上昇が主因である。また、自動データ処理装置および部品(269億ドル、同7.1%)も同66.1%と、2010年以来の高い伸びを記録した。さらに、自動車と船舶はそれぞれ同39.3%、同31.0%と底堅く推移している。一方で、衣類やかばん、玩具といった労働集約型の消費財輸出は減少傾向が続いている。

また、米中対立の緩和を背景に、対米輸出が大きく伸びたことも要因の一つである。5月の輸出を国・地域別に見ると、米国向け(390億ドル)は前年比35.4%と、3月(同▲26.5%)、4月(同11.3%)から大きく回復した(図表2)。このほか、ASEAN向け(726億ドル、うちベトナム220億ドル)、日本向け(145億ドル)も、それぞれ同24.3%、同10.9%と比較的堅調に推移した。一方、EU向け(532億ドル、うちドイツ115億ドル)は同7.6%と、4月から伸びがやや鈍化した。

短期的には輸出の強さは維持され、6月も前年比17%前後の高い伸びが見込まれる。

ただし、中国製造業 PMI の新規輸出受注は 5 月に 48.6%と分岐点の 50 を下回っている。中東情勢の影響による原油価格の高止まりや、AI 投資ブームの不確実性、米欧との貿易摩擦再燃リスクなどを踏まえると、年後半にかけて輸出は減速する可能性がある。



輸入についても、主要品目の価格上昇を背景に高い伸びが続いている。5 月の輸入額(ドル建て)は前年比 27.4%となり、集成回路、原油、鉄鉱石、銅などの輸入額はいずれも増加した。集成回路の輸入額は同 68.0%となり、輸入単価が 69.8%上昇した一方で、輸入量は同 1.0%減少した。原油についても、単価が同 62.4%上昇し、輸入量は同 29.0%減少したものの、輸入額は同 15.3%となった。鉄鉱石や銅も同様に、価格上昇が輸入額を押し上げた。

対米輸入は同 20.4%と大きく回復しており、前年の反動や米中関係の改善が背景にある。このように、輸入増加の主因は、主要品目の価格上昇に加え、米中関係の改善や国内産業の高度化に伴う機械・電子製品の輸入拡大である。6 月も前年比 25%前後の高い伸びが続く見通しである。

5 月の輸出額(3,768 億ドル)から輸入額(2,714 億ドル)を差し引いた貿易黒字は 1,054 億ドルとなった。